



## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 濃霧	北から流れてくる寒流である千島海流（親潮）の上を、夏に南東から吹く暖かく湿った空気が通る際、海面付近で急激に冷やされることで水蒸気が水滴となり、霧が発生します。釧路市などの太平洋沿岸部では、この霧が太陽の光を遮るため、夏でも気温が上がりにくく、日照時間が短くなるという気候特性が見られます。
問2	<b>答え 1</b> 公共交通機関と宿泊施設を結ぶ二次交通の利便性向上と、官民連携による環境整備	特定の季節に外国人客が集中すると、移動手段の不足や言語の壁といった課題が生じます。これに対し、タクシーやバスなどの「二次交通」を柔軟に運用し、民間企業と自治体が役割を分担して観光客の受け入れ体制を整えることが、二セコモデルの本質的な取り組みです。
問3	<b>答え 1</b> 世界屈指の雪質を求めて海外から多くのスキー・スノーボード客が訪れるため	二セコ周辺は「パウダースノー」と呼ばれる質の高い雪が海外で高く評価されており、オーストラリアを中心とした海外からの観光客が冬のレジャーを目的に集中的に訪れます。統計データにおいて冬季の宿泊客が突出しているのは、この季節的なアクティビティが観光需要の核心となっているためです。
問4	<b>答え 1</b> 1戸あたりの耕地面積が広く、大型機械を活用した大規模な土地利用型農業が行われている	北海道の農業は、他都府県と比較して農家1戸あたりの経営面積が非常に大きいことが最大の特徴です。特に小麦や大豆、てんさいなどの畑作においては、トラクターなどの大型農業機械を導入した「土地利用型農業」を行うことで、少ない労働力で広大な面積を管理し、高い生産性を実現しています。これにより、国内の小麦需要を支える重要な供給源となっています。
問5	<b>答え 1</b> 食料品工業	北海道は、広大な農地を活かした大規模な農業や、豊かな漁場を背景とした漁業が非常に盛んです。これらの豊富な農水産資源を加工し、乳製品や水産加工品、砂糖などを製造する工業が発展しているため、工業生産全体に占める割合が全国平均と比べて極めて高いことが特徴です。
問6	<b>答え 1</b> 客土	泥炭地は植物の遺骸が腐敗しきらずに堆積した土地で、水分が非常に多く農業に適しません。この土地に別の場所から良好な土を運び込んで層を作ることを「客土（かくど）」と呼びます。この作業によって土地の質を改善し、排水施設で水分を除くことで、ジャガイモやテンサイなどの畑作や、牧草地としての利用が可能になりました。
問7	<b>答え 1</b> 水分を多く含み農業に不向きな泥炭地を改良するため、他から土を運び入れる客土が行われた。	石狩平野の大部分は、寒冷な気候により植物の分解が進まずに積み重なった「泥炭地」でした。この土地は米作りに必要な温度を保ちにくく、また地盤も軟弱でしたが、明治時代以降、他の土地から質の良い土を運び入れる「客土」や、排水路の整備といった大規模な土地改良が続けられました。この努力に加え、寒さに強い品種改良が進んだことで、北海道は日本有数の米どころとなりました。火山灰地の改良（客土）は主に十勝平野などで見られる特徴です。
問8	<b>答え 1</b> ユネスコ	知床の流水が育む豊かな生態系や、屋久島の樹齢数千年を超える屋久杉などは、人類全体で守るべき価値があるとして世界遺産（自然遺産）に登録されました。こうした遺産の選定や保護を主導しているのがユネスコです。よく似た名称のユニセフ（国連児童基金）は、子供の権利保護や支援を目的とした組織であり、混同しないよう注意が必要です。
問9	<b>答え 1</b> アイヌ民族	北海道には古くから、独自の文化を持つ先住民族であるアイヌの人々が暮らしてきました。現在でも北海道の多くの地名は、彼らの言語である「アイヌ語」に由来しています。例えば「稚内」はアイヌ語で「冷たい水の出る川」という意味の言葉に由来するなど、地域の自然の特徴が名前に反映されていることが多くあります。